

秋冬キャベツ栽培体系

●秋冬キャベツ栽培管理表 (10a 当たり)

作業名	作業日程	目的	使用資材	処理量
播種	7/1~7/5		128穴	40枚
排水対策	6/25~7/15	明渠・弾丸暗渠 モミガラ暗渠		
土壌改良	7/16~7/20	適正施肥管理	畑のカルシウム、てんろ石灰、ハイグド40、ストロングバランス、炭酸苦土石灰(粒)、ようりん	分析結果に応じて処方
施肥	7/16~7/20	基肥	高度化成444、燐硝安2903	140kg
防除	7/20~7/24	ネコブ対策	オラクル顆粒、フロンサイドSC、又はネビジン粉	100~150ℓ又は30kg
畝作り・定植	7/25~8/10		セル苗	4,900本
除草	定植後	除草	フィールドスターP	100ℓ
施肥	本葉8葉期	追肥	NK23号	20kg
	結球始期			20kg
防除	8/中~10/上旬	病虫害防除	下記のとおり	
収穫見込み	10/15~12/10		加工用向け	

●秋冬キャベツ防除暦

回数	使用時期	対象病虫害	薬剤名	使用方法			注意事項
				濃度・倍率	薬量 (g, ml)	散布量 (10a)	
定植前		根こぶ病	フロンサイドSC オラクル顆粒水和剤 ネビジン粉剤 フォース粒剤	全面散布 100~150ℓ 200倍 セルトレイ500ml灌注処理	30kg 全面散布 4kg		<ol style="list-style-type: none"> ネビジン粉剤とフロンサイドSCのうち一方を使用する。 ネビジン粉剤使用と定植の間隔は5日以内にする。 根こぶ病多発地にはオラクル顆粒水和剤とネビジン粉剤を併用する。 プレバソンプロアブル5の灌注処理は、定植2~3日前に処理しておく、隅々まで薬剤が行き届く。 夏期高温時の薬剤散布は葉害を生じやすいので、夕方に散布する。(除草剤散布を含む) 結球後は葉害回避のため有機銅剤を使用する。 菌核病は早めに抜き取り圃場外へ廃棄する。 アブラムシが発生した場合はエルサン乳剤を加用散布する。
		ネキリムシ類 コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、ネキリムシ類	プレバソンプロアブル5	100倍 セルトレイ500ml灌注処理			
定植直後		除草剤 表皮保護剤、しおれ防止	フィールドスターP乳剤 プロテック	1,333倍	75	100ℓ	
1	8月中旬	黒腐病、軟腐病、べと病 コナガ、アオムシ、ヨトウムシ ハスモンヨトウ、オオタバコガ タマナギンウワバ、アブラムシ類	Zボルドー水和剤 ハクサップ水和剤 バイカルティール ファイトカル	500倍 1,000倍 1,000倍 1,000倍	200 100 100 100	100ℓ	
		黒腐病、軟腐病 コナガ、アオムシ、ヨトウムシ ハスモンヨトウ	カスミンボルドー水和剤 カウンター乳剤 バイカルティール ファイトカル	1,000倍 2,000倍 1,000倍 1,000倍	100 50 100 100		
		黒腐病、軟腐病、べと病 コナガ、アオムシ、ヨトウムシ ハスモンヨトウ、オオタバコガ ハイマダラノメイガ、ウワバ類	Zボルドー水和剤 アクセルフロアブル バイカルティール ファイトカル	500倍 1,000倍 1,000倍 1,000倍	300 150 150 150		
		黒腐病、軟腐病 コナガ、アオムシ、ヨトウムシ ハスモンヨトウ、オオタバコガ ハイマダラノメイガ、ウワバ類	カスミンボルドー水和剤 フェニックス顆粒水和剤 バイカルティール ファイトカル	1,000倍 2,000倍 1,000倍 1,000倍	200 100 200 200		
5	9月下旬	黒腐病 コナガ、アオムシ、ヨトウムシ ハスモンヨトウ、タマナギンウワバ ハイマダラノメイガ	キノンドーフロアブル アフームエクセラ顆粒水和剤 バイカルティール ファイトカル	800倍 1,000倍 1,000倍 1,000倍	312 250 250 250	250ℓ	
		黒腐病、軟腐病、べと病 コナガ、アオムシ、ヨトウムシ ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ タマナギンウワバ、オオタバコガ ハイマダラノメイガ	ヨネボン水和剤 コテツフロアブル バイカルティール ファイトカル	500倍 2,000倍 1,000倍 1,000倍	600 150 300 300		

フィールドスターP乳剤散布後、イネ科雑草が発生した場合はワンサイドP1000倍を100%全面散布

雑草発生期(畦間処理)としてバスタ400倍

※除草剤を使用した場合は2日以内にカスミンボルドー水和剤1000倍を散布する(黒腐病予防のため)